

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。

なお、要求図面では表せない部分についても記述する。(1)(3)(5)の図示は必須

(1) 居住部門の個室の計画において「入居者の住みやすさ」及び「介護のしやすさ」について考慮したこと

	<p>「入居者の住みやすさ」 出入口は間口も大きくとり 引き戸とすることで車椅子でも 容易に出入りできるように計画した。 車椅子が容易に方向転換できる ように直径1500のスペースを 設けた。</p> <p>「介護のしやすさ」 居住者の出入りの把握がしやすい よう、1本の廊下からすべての 個室の出入口が見通せるよう 計画した。 室内にはスイッチを設け緊急時 にすばやく対応できるように 配慮した。</p>
--	---

(2) 居住部門及び居宅サービス部門のスタッフルーム等介護に必要な諸室の配置について考慮したこと

スタッフルーム等諸室は、効率よく介護ができるよう、3Fについては
A、Bコニート、2FについてはCコート及び居宅サービス部門の間に配置し、
両方に容易にアクセスできるように配慮した。

(3) 共同生活室及びデイルームについて、自然光を取り込みつつ、冷房時の負荷抑制を図るために
建築計画において工夫したこと(Low-Eガラスを仕様する工夫を除く)

	<p>バルコニーは、バルコニーとすることで 夏の直射日光を遮蔽する計画とした。 バルコニー以外の開口部については 水平ブラインドを設け、自然光を取り込み つつ、直射日光を遮る計画とした。</p>
--	---

※要点・図面・エスキースの裏面には念のため、氏名をお書き添えください。

(4) 建築物の構造計画について、建築物の特性の応じて採用した構造種別・耐震計算ルートとそれらを採用
するにあたり、耐震性を確保するために考慮したこと

ルート①・2・3	構造種別：鉄筋コンクリート造
スパン割を7mの均等スパンとし、建築物の安定性に配慮した。 剛性の高いラーメン架構を採用し、耐震性を確保する計画とした。	

(5) 車寄せの屋根・庇などとなる部分の寸法、有効高さ及び車寄せの屋根・庇などの構造計画
(各種寸法、部材の材質、支持方法及び耐震性等)について考慮したこと

	<p>庇寸法 7000 × 3000 有効高さ 2700 鉄骨造</p> <p>庇は、耐震性を高める為、 軽量化を図ることのできる鉄骨造 とした。また斜材を設ける ことにより、強度を高める 計画とした。</p>
--	---

(6) 地盤条件や経済性を踏まえた、支持層の考え方、採用した基礎構造とその基礎底面のレベル
について考慮したこと

既存建築物撤去範囲を地盤改良した上で、N値30以上である砂礫層を
支持層とした。基礎は不動地盤に強いべた基礎とした。基礎底面の
レベルは、支持層に十分根入れができる、GL-2000で計画した。

(7) インフルエンザやノロウイルスへの対策について、建築計画や設備計画において考慮したこと

定期的な換気や負荷なく行えるよう、換気設備に外調機を
用いる計画とした。人の集まる共同生活室やデイルームは十分な距離
がとれるよう、テーブルを離して設置できるスペースを確保した。

(8) 高齢者介護施設としての空調方式について、採用した空調方式とその理由

空冷ヒートポンプ・パナソニック・エアコン天井カセット型 + 外調機
面積の小さな室が多いため、個別空調により空調負荷の低減が
期待できる空冷ヒートポンプ・パナソニック・エアコンとした。換気は熱損失の少ない外調機を採用した。